

海老取川河川整備計画の概要

海老取川とは？

海老取川は、東京の南部の大田区に位置し、多摩川から分派し、海老取運河に接続するまでの、流路延長1.04kmの一級河川です。全川が潮汐に応じて水位が変動する感潮河川であり、流量配分を持たない河川です。また、海老取川は、港湾区域と河川区域が重複する共管区域となっています。



海老取川河川位置図

出典：国土地理院



多摩川分派点



穴守橋下流

海老取川河川整備計画の変更理由

羽田空港跡地では、大田区が「羽田空港跡地第1ゾーン整備事業(第一期事業)」に着手し、平成29年5月に跡地まちづくりの整備・運営事業予定者が決定されるなど、現在、まちづくりが進められています。

そのため、海老取川右岸の多摩川から穴守橋の区間にかけて、高潮や地震に対する安全性を確保する必要性から、跡地まちづくりと一体となった新たな防潮堤の整備を目指します。

海老取川右岸周辺の状況

【羽田空港跡地】

- H22.10 羽田空港跡地まちづくり推進計画の策定【国土交通省、大田区、品川区、東京都】
- H27.7 羽田空港跡地第1ゾーン整備方針の策定【大田区】
- H28.10 第1ゾーン整備事業(第一期事業)整備・運営事業者の募集開始【大田区】
- H29.5 整備・運営事業予定者決定
※代表企業：鹿島建設株式会社
- H32.7 まちづくり概成(予定)

【多摩川】

- H29.3 河川整備計画変更
⇒第1ゾーン沿川(多摩川)にて、新たに高潮対策を実施



羽田空港跡地第1ゾーンと周辺地区



海老取川右岸の様子(天空橋下流)

河川整備計画の主な内容

海老取川では、高潮や地震に対する安全性を向上させると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、海老取川（海老取運河との境界～多摩川分派点）です。河川の整備から維持管理に関することも含まれます。

計画対象期間は、おおむね20～30年としますが、河川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川整備の主な事項

赤字：主な変更箇所

治水・・・高潮及び地震による災害の発生防止

左岸の防潮堤整備済み区間において、将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対して、防潮堤の機能を保持し、水害に対する安全性を確保するために、既設防潮堤の耐震対策を実施します。

右岸側は穴守橋から多摩川にかけて、跡地まちづくりの進捗に合わせ、昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風が東京湾及び主要河川に対して最大の被害をもたらすコースを進んだ時に発生する高潮（A.P.+4.1m）に対応できる新たな防潮堤を整備します。その他の区間は、背後地の利用状況を踏まえ、関係機関と連携し、今後の対応を検討していきます。



工事の種類	設置される河川管理施設	施行場所
耐震対策	耐震護岸※ ¹	左岸（全川）
高潮対策	防潮堤※ ²	右岸（穴守橋～多摩川）

※¹ 既設防潮堤の耐震対策を実施する。

※² 耐震性を考慮し、新たな防潮堤を整備する。

環境・・・河川環境の保全、創出、再生

左岸側の耐震対策を実施する箇所では、上部を開放し水辺へ近づけるようにします。

右岸側は穴守橋から多摩川にかけて、跡地まちづくりと一体となって、管理用通路の整備や水辺へ近づけるようにする等、親水性かつ景観に配慮した整備内容を検討していきます。